



子どもの6分の1 6人に1人が貧困状態に陥っているといわれる現在の日本。この連載では、その6分の1の子どもたちの現状と、この地域で「子ども貧困」の解決に取り組む団体の活動をご紹介します。

学習サポートの中で育ち合う人々

「子どもの貧困対策の推進に関する法律」(子どもの貧困対策法)が、2014年1月に施行され、それに続き8月には「子どもの貧困対策に関する大綱」が閣議決定されました。大綱の中で、子どもの貧困対策の意義として「子どもの将来がその生まれ育った環境によって左右されることのないよう、また、貧困が世代を超えて連鎖することのないよう、必要な環境整備と教育の機会均等を図る子どもの貧困対策は極めて重要」と記されています。

名古屋市の学習サポートモデル事業

名古屋市では2013年から学習サポートモデル事業を開始しました。現在、生活保護世帯、生活困窮世帯、ひとり親家庭の中学生を対象とした学習支援が実施されています。

「生活保護世帯等の中学生の学習サポートモデル事業」(健康福祉局)は、生活保護世帯及び生活困窮世帯の中学1~3年生を対象に、週2回の実施。高校進学を目指した学習・参加中学生の居場所づくり・親の養育支援を総合的に実施することで、世帯の自立促進と貧困の連鎖防止を図ることを目的としています。2013年度に中村、中川、緑区の3区5か所で始まり、今年度は、北、西、中村、中川、港、南、守山、緑、名東区の9区24か所で実施となりました。

「ひとり親家庭の中学生の学習サポートモデル事業」(子ども青少年局)は2014年度より、緑、中川、北、港区の4区で中学1年生を対象に開始。今年度は名古屋市全域20か所で中学1、2年生を対象に週1回の実施とし、目的を「学習や進学に対する意欲を醸成し、家庭における学習に積極的に自発的に取り組めるよう支援を行い、貧困の連鎖を未然に防止する一助とする」としています。

学習サポートで出会った子どもたち

私たち、こどもNPOは、2006年公営住宅での生活に困難を抱える子どもたちの居場所づくりをきっかけに、2008年から「無料塾」として学習サポートに取り組んできました。名古屋市の事業実施に伴い、現在は「生活保護世帯等の中学生の学習サポートモデル事業」を緑区で、「ひとり親家庭の中学生の学習サポートモデル事業」を緑区、中川区で受託運営しています。

学習サポートで会う子どもたちの多くは、「勉強が苦手」な子どもたちです。

「勉強わからんし〜」「どうせ、やってもできないもん」学校へ行っても寝ているか友だちとおしゃべりして授業に参加していない子、学校を休みがちなお子もいます。そうすると内申点などの評価が下がる。

「ああ、誰も自分になんて何も期待していないんだろな」「自分なんていなくてもいいし」「学校って居心地悪いし。行っても退屈だし」

こうやって勉強や学校から離れていきます。

小学校の勉強から分からなくなっている子どもたちも多くいます。話を聞いていくと、小学生の時点で学校に行けなくなった経験のある子もいます。

- ・保護者がメンタル面の不調で子どもの世話をしきれず、子ども自身も引きずられるようにメンタル面が不調になり家に引きこもって過ごしていた。
- ・家庭内に規則正しい生活習慣がなく、昼夜逆転の生活、食生活の乱れから体調不良を起こしたり気力が湧かず、登校時間に準備が間に合わず、なんとなく休み続けてしまう。
- ・保護者の学習への関心が低く、家庭で学習する習慣がなく、勉強ができなくても困ると思っていない。
- ・学業よりも家庭の都合が優先。弟妹の世話や親の手伝いを任されて子どもの自由になる時間が持

てない。

それでも、漠然と進学しておかないと就職先が見つからないから高校には行きたい。だから勉強しなくちゃ、と学習サポートにたどり着いた子どもたちがいます。

「勉強が苦手」の裏にある「子どもの貧困」

この子どもたちにとって、解き方さえわかれば「勉強が苦手」が克服されるとは言えません。基本的な生活環境や生活習慣が整っていないことで子どもたちの心の成長が阻まれているからです。自分の持っている力に気づかず、自分のことを心配してくれる人がいるなんて信じられない。将来に夢を持つこともあきらめてしまっている。見えている世界も狭く、知らず知らずのうちに親と同じ道をたどり「貧困の連鎖」に陥る心配があるのです。

私たちの学習サポートでは、子どもたちと一緒に勉強をする学習サポーターとして大学生に協力を呼びかけています。子どもたちにとって大学生の存在は、自分の少し先の将来を想像させてくれます。高校や大学生活について、通学のこと、放課後のこと、バイトのこと。勉強の合間におしゃべりしながら少し視野が広がっていきます。自分とゆっくりと向かい合ってくれる人がいる安心感で、勉強にも少しずつ関心を持ち始めると「あー、わかった!」「なんか勉強することが楽しくなってきた」と表情が明るくなってきます。自分の力で考え「できた!」という自信は、さまざまなことへの関心へとつながります。勉強だけではなく社会の中に出向いてみよう、みんなの力になりたい、と思い描くようになっていきます。

子どもたちがサポーターと出会い、信頼をもって人と関わることを知り、自分らしく安心して過ごせ

る「居場所」ができることによって本来の目的である「学習」する力が育っていきます。子どもの成長する姿を見て、「私もがんばらなくちゃ」と励まされたと話してくださったお母さんもいます。それぞれができることを持ち寄りながら、お互いの力を高め合い元気が湧いてくるところが学習サポートの良さではないかと思えます。



INFORMATION

特定非営利活動法人 こどもNPO

こどもNPOは、子どもの生きる権利、育つ権利、守られる権利、参加する権利を基盤とし、子どもが社会参画する場や機会をつくり、子どもとおとなが共に持続可能な社会を実現することを目的としています。

サポートの現場を見てみませんか?

名古屋市緑区鳴海町字大清水69-1116

TEL/FAX: 052-848-7390

E-mail: office@kodomo-npo.or.jp

HP: <http://www.kodomo-npo.or.jp/>

FB: <https://www.facebook.com/kodomonpo.nagoya>